

「真夏に有り難き施し物」

鳥取県 正壽寺 住職 山脇 俊英

数年前のお盆の出来事です。その日はこのほか厳しい暑さで、陽ざしの強い日でした。あるお檀家さんの家で、御主人の初盆とお盆のお勤めをさせていただきました。

お経が終わり、奥様から「暑いですから、こまめに水分補給をしながら 頑張ってください。」と冷えたペットボトルを手渡されました。驚いたのは、ペットボトルのキャップが新しいものではなく、ラベルも剥がされていたことです。私が不思議に思っていますと、奥様はその理由を説明して下さいました。この飲み物は、十キロほど離れた場所で採れる、平成の名水百選にも認定されている「布勢の 清水」でした。戦国時代、この地を治めていた鹿野城主亀井茲矩公もこの清水を愛され、夏の暑い日納涼にお見えになっていたそうです。

奥様にお聞きすると、ご主人が生前この清水をお好きで再々汲みに行かれ、家庭での料理に、コーヒーにと、長く愛飲されていたそうです。ご主人が亡くなってからは、奥様がこの清水を汲みに行き、毎日御仏前にお供えしている事を聞き、最高のご供養をされている事を知りました。そして読経の後、その清水を私にも用意してくださいったのです。そのお心遣いが有難く私は心からの感謝を申し上げました。そして帰り道、車中で頂戴した清水を頂きました。気温が三十五度以上の猛暑日、施して頂いたその尊い一杯が身体全体にしみわたり、この上ない清涼感を与えてくれました。

見返りを求めず、他の為に施しをする事を「布施」と言います。大本山 永平寺をお開きになった道元禅師は、施す者、施しを受ける者、施し物、この三つが清らかな三角形を描いてこそ「布施」が成立するとお示しです。亡きご主人様への想いのこもった一本の清水。ご主人への施し、私への施し、心のこもった「施し物」を頂いたと深く感謝しました。